

令和7年度使用中学校用教科用図書（「教科名 音楽（一般）」）の採択結果等について

広島大学附属三原中学校

種目	発行者	採択理由
音楽（一般）	教育芸術社	○基礎・基本の定着に関わって 思いや意図をもって表現したり、音楽や演奏のよさや美しさを味わいながら聴いたりするために必要な情報が適切に示されている。また、音楽活動を通して、無理なく音楽を形作っている要素を捉えたり、それらを生かして表現や鑑賞の活動を進めていったりできるように工夫している。 ○主体的に学習に取り組む工夫に関わって 全ての教材において、QRコードが記載され、自身で学習を進められるように工夫されている。また、我が国や郷土の伝統音楽を学習する際に、親しみや実感をもって音楽に接することができるよう、歌ったり手を打ったりする体験活動が示されている。さらに、伝統音楽や民謡などは実際に音楽の一部を体験したり、同世代の中学生の取組について知ったりすることによって、生徒が興味・関心をもち、実感を伴って鑑賞や歌唱の学習に取り組めるよう配慮されている。 ○内容の構成・配列に関わって 学習指導要領に示されている各学年の目標及び内容を踏まえ、各学年、全学年を通して教材が系統的・発展的に組織されている。また、全体を通して過不足ない分量の教材が取り扱われ、各教材の学習内容が明確に示されるとともに、それに即した活動の具体的な手立てやヒントが分かりやすく適切に取り上げられるなど、目的に応じた扱い方の工夫がなされている。 ○内容の表現・表記に関わって 音楽科における三つの資質・能力を確実に育成できるように「学習目標」「活動文」「音楽を形づくっている要素」などが一目でわかるように記載されている。また、ユニバーサルデザインの視点での配慮や色覚特性への配慮がなされるなど、すべての生徒が学びに向かいやすいように工夫されている。 ○言語活動の充実に関わって 学習内容をまとめた「学びのコンパス」には音楽を形作っている要素が明示されており、各教科の学習目標及びそれに関わる学習の窓口となっている。指導計画作成の際にそれらを活用することにより、〔共通事項〕との関連が図れるよう配慮されており、そのことは思考・判断・表現する際の言語活動の充実につながる。 ○本校の研究に関わって 教科等横断的な学習の視点での題材の配列や、様々な角度から音楽を捉える「音楽って何だろう？」の掲載により、学びの拡がりにつながるとともに、音楽科の学習の知識・技能の定着だけではなく、音楽文化を探究していくことにより生涯にわたって音楽に親しみ続ける生徒の育成につながる。